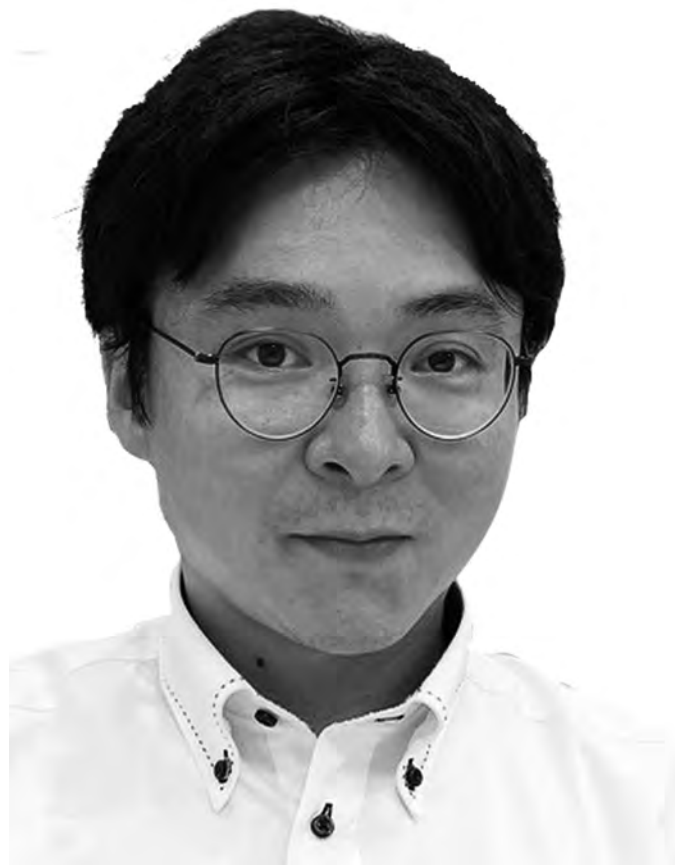


日本バウハウス協会
講演 (オンライン)
2024年10月14日(月)
18:30-20:00

長谷川 怜

帝都復興計画と 東京のモダニズム



1923年(大正12年)に発生した関東大震災は、東京・横浜を中心として関東一円に甚大な被害を与えた。その後、後藤新平らの旗振りにより東京では帝都復興計画が進められ、不燃化都市の実現に向けた様々な施策が施された。倒壊・焼失した建物の再建においては、明治期までの煉瓦建築から脱却した鉄筋コンクリート造が主流となった。

帝都復興計画が進められた時期、すなわち大正末～昭和初期は、折しも関東大震災の当日に竣工したフランク・ロイド・ライトの帝国ホテルに象徴されるように、建築分野に新しいデザインが花開いた時代であった。

講演では、震災から帝都復興計画の概要を紹介した上で、この時期に建設された新しい建築とその様式を概観し、東京のモダニズムについて深く知る機会としたい。

講師 長谷川怜 (はせがわ れい)

皇學館大学文学部国史学科准教授、日本近代史専攻。

1986年愛知県名古屋市生まれ。学習院大学文学部史学科卒業、同大学院博士後期課程修了(博士・史学)。

東京都公文書館専門員、千代田区立日比谷図書館文化財事務室学芸員を歴任。

研究テーマは日本の満洲進出、日中関係史など。行政での勤務時代は東京の歴史編纂や史料調査、東京の近代史に関する展示を担当。

主催 日本バウハウス協会 (お問い合わせ)

<http://nipponbauhaus.jp>

講演は無料 (Zoom)

講演申し込みは2次元コードまたは下記 URL

https://us02web.zoom.us/webinar/register/WN_711ue7oBR5GFvBMjBFudIQ

